

ようやく涼しい季節がやってきました。

今年は残暑が厳しく、10月に入りようやく秋が始まった感じがします。食欲も旺盛になる季節ですが、運動もしっかり行い、健康な体を手に入れましょう！

●キンモクセイはクローンだった！？

■キンモクセイは中国原産の樹木で、日本に渡来したのは江戸時代のこと。そのほとんどが雄株で結実しません。挿し木で増やしたため、みな同じ遺伝子を持つクローンなのです。そのため、同じクローン植物のソメイヨシノなどと同じように、キンモクセイはみな同じタイミングで一斉に開花するのです。

📖日本の「三大香木」

- ・春：ジンチョウゲ（沈丁花）
 - ・夏：クチナシ（梔子）
 - ・秋：キンモクセイ（金木犀）
- ※「四大香木」というときは、冬に咲くロウバイ（蜡梅）を入れます。



①キンモクセイ

●食虫植物イヌタヌキモ

■イヌタヌキモは水生の食虫植物で、茎についている袋のような器官（捕虫囊）でミジンコやボウフラ、小さいタニシなどを捕食します。その袋には内側に開くフタが付いていて、ミジンコなどがフタの突起部分に触れるとフタが開き、減圧している袋に生き物ごと吸い込まれまれ、袋の中の水圧が外側と同じになるとフタが閉じます。この植物は根を持たないので、水中に浮遊しながら捕まえた生き物から栄養を摂取することで生きています。



②イヌタヌキモ

📖ムジナモとイヌタヌキモの違い

朝の連続テレビ小説「らんまん」に出てきたムジナモも、イヌタヌキモと同じく水生植物で、根がなく水中を浮遊しながら生息する食虫植物です。しかし、イヌタヌキモが捕虫囊に吸い込んで捕食するのに対し、ムジナモは食虫葉をもつモウセンゴケ科の植物で、二枚貝のような葉を感覚毛による刺激を通じて開閉し捕食します。また、イヌタヌキモは種を作らないのに対し、ムジナモは種子で増えます。こうしてみると、姿や形は似ていても、全く別の植物なのわかりますね。

※「らんまん」のムジナモの放送週で、万太郎がムジナモを発見する場面を含め、いくつかのロケーションは古河公方公園内で撮影されました。(公園のSNSで紹介しています。)

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- ・Instagram @koga_kubou/
- ・X (旧 Twitter) @kubou_park



公方様の森はスズメバチの数が多く、危険なため立入禁止

■今月の鳥 「ハクセキレイ」

ハクセキレイはカラスやスズメなどと同じように、人間の生活に近いところまで生息範囲を広げた野鳥です。人間に対する警戒心が弱い反面、縄張り意識が強い鳥でもあります。この公園のように水辺に近い場所を好む鳥で、園内では長い尾羽を上下に動かしながら、地上の昆虫類などを食べ歩く可愛らしい姿を見ることができます。なぜ尾を上下にふるのかは、未だ謎に包まれています。



★ハクセキレイ

Instagramアカウント



X (旧Twitter) アカウント



●涼しくて体を動かしたくなる秋です。しっかり寝てしっかり運動していい汗を流しましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索